

会議の名称	令和5年度第3回茅野市総合計画審議会		
開催日時	令和5年10月24日(火) 18時30分～20時00分		
開催場所	茅野市役所 議会棟大会議室		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
事務局	<p>○議事</p> <p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 副市長挨拶</p> <p>4 協議事項</p> <p>(1) パブリックコメントの結果について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</span></p> <p>(2) 第6次茅野市総合計画基本構想(素案)について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2</span></p> <p>(3) その他</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p> <p>○議事録</p> <p>1 開会</p>		
会長	<p>2 会長挨拶</p> <p>本日は本年度第3回の総合計画審議会ということでお集まりいただき、ありがとうございます。</p> <p>県内の状況について、少し触れさせていただきたい。</p> <p>数年前から、軽井沢の地価は上昇に転じている。今回10%を超える上昇率のポイントもあり、そこは全国でも上位に入っている。上昇の傾向には2パターンあり、旧軽井沢を中心とした富裕層の需要と、もう一つは、移住または二地域居住を目的とした一般層の需要の変化である。コロナ禍を経て、リモートワークが増加したことにより、東京からの移住も増加している。軽井沢自体は居住面積が小さいということで、現在、周辺の御代田へ人口が染み出しており、御代田は人口の増加が続いている。もう一つ、現在注目されているのが白馬である。コロナ禍においては、オーストラリア人を中心としたインバウンドの流入が非常に活発で、一時コロナで流入がストップしたように見えたが、コロナ禍が明けた時期に、今度はアジア系の資本が流入して、活況を呈しており、住宅地で10%を超えるような上昇率のポイントもあった。リゾート事業が中心だが、北海道のニセコの土地価格が高騰して、過飽和状態になったため、ロケーションの良い白馬村に流入したようである。問題は、白馬の土地の値段が上がったことにより、白馬に自分の子どもの家を建てようと思った人が土地を買えないということが起こっていること。大町の方に人が流れているというような話も聞いている。</p> <p>一方、諏訪のエリアにおいては、現在、インバウンドの大きな流入は報告されておらず、大きな地価の変化はないが、観光を含め、茅野市におけるインバウンドの流入の是非については、議論の余地があると考えている。土日を見ると、松本や白馬に多くの外国人が来ているので、そういう方には茅野に</p>		

	<p>来ていただくのが良いが、環境との整合性については少し憂慮されているところである。</p> <p>総合計画審議会においては、そろそろ基本構想のまとめの段階に入ってきている。幅広いご意見をいただく中で、時代の大きな変化に耐えうる構想にしたいと考えている。委員の皆様にはご協力をお願いしたい。</p> <p>3 副市長挨拶</p> <p>秋も深まり寒くなってきたが、夜の会議にご出席のいただき大変ありがとうございます。</p> <p>この総合計画審議会も5月以来の開催ということで、この間、総合計画の策定が止まっていたわけではなく、パブリックコメントを行ったり、総合計画を推進していくために行財政の仕組みを変える行財政改革などに集中的に取り組んでいた。そんな中で本日、第3回の総合計画審議会を迎えるわけだが、このタイミングで一つ触れさせていただきたいことがある。</p> <p>今年は、平成5年6月に衆議院で地方分権の推進に関する決議が採択され、地方分権改革がスタートしてからちょうど30年目に当たる年である。当時、東京への一極集中を排除して中央から地方へ、また、中央集権的な行政のあり方を問い直すということで、地方自治体が実力を身につけて、ゆとりや豊かさが実感できる、そんな社会を目指して全国の地方自治体がんばっていたと思う。当時の矢崎市長もそうだったと思うが、名物首長も登場し自治体の自主性や自立性の強化が当時謳われていた。しかし、現在その地方分権改革がどうかと言うと、コロナ禍を経て、国のコントロールが非常に強まっているように感じている。DXなどを進める上でも、ローカルルールよりも全国一律のスタンダードな仕組みの方が合理的という考え方が国からも出されている。さらに、人口減少が進む中で人手不足が顕在化してきたり、財政的に厳しい状況であったり、なかなか地方の独自性を打ち出すことが難しくなっている。これは、地方分権の後退のように見えるが、茅野市はそれに甘んじている訳ではない。例えば現在、規制改革のための特区をとって、全国一律の規制に風穴を開けようとしている。これは市民の皆さんの生活の視点に立って、暮らしやすい地域をつくっていくための取組である。この第6次の総合計画は、市民の皆さんが主体的にまちづくりを行う、また、地方自治を確立するための工程表の役割を担っている。これまで議論を重ねていただき、まとめの時期に入っているが、委員の皆様には、この総合計画で目指すまちの姿を明らかにしていただきたいと思う。本日はよろしくをお願いしたい。</p> <p>4 協議事項</p> <p>(1) パブリックコメントの結果について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</span></p> <p>=事務局が説明=</p>
副市長	
事務局	
会長	<p>多くのご意見をいただいた。やはり時代が激しく変わっていることを市民の皆さんが認識され、今回の基本構想についても興味があったのではないかと思っている。</p> <p>意見等なし</p>

会長	パブコメでいただいたご意見については、次の協議事項の素案に反映している部分もある。引き続き事務局から説明をお願いしたい。
事務局	(2) 第6次茅野市総合計画基本構想（素案）について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2</span> ＝事務局が説明＝
会長	まず、委員の皆さんに何点かお諮りしたい。まず、1点目として、9ページの「まちづくりのイメージ図」について、パブコメのご意見にもあったが、この図は後半にあった方が良いのではないかということ。現時点では前半に据えている。個人的には、どんな計画内容かというイメージが大事なので、前半で良いと思っている。委員の皆さんからもご意見をいただきたい。  意見等なし
会長	それでは前半に据える形にしたい。 2点目として、16ページに交流の考え方が記載されているが、交流という と外との交流のようなイメージで捉えてしまいがちである。それも大事だが、 地域内での交流も大事であるとの考え方により、新たにそのような交流を 定義したページを追加している。この内容についていかがか。  意見等なし
会長	それではこの内容で追加したい。大事な部分であると認識している。 3点目として、18ページの図について、「たくましさ」、「やさしさ」、「し なやかさ」のすべての要素が3つのまちの姿に影響している図に修正した ものであるがいかがか。  意見等なし
会長	わかりやすい図であると思う。それではこの図を採用することとしたい。 次に、縄文の捉え方について確認したい。9ページのイメージ図の一番下に 「縄文文化に学ぶSDGs」があり、24ページにその内容を書き込んでい る。茅野市の特色を表現する文章として、このような内容でいかがか。
委員	2ページから縄文が外れた理由を四角い枠の外に明示したほうが良いと思 う。そして、茅野市の縄文文化と言うが、縄文文化は日本全国にあり、日本 の基層文化と言われている。その元となる縄文って何だったのかというこ とを、これから茅野市でもっと突き詰めていくような、いわば縄文プロジェ クトのセカンドステージのようなことをやってもらうのが良いと思ってい る。
会長	2ページの1ポツ目の交流の例の一つに、この地が縄文時代に交易の中心 であったことが書かれている。それも踏まえて、今後、縄文をどのように捉 えていくか考えてもらいたいというご意見だと思う。
事務局	2ページについては、縄文は茅野市の強みであることは確かだが、それを1 ポツ目の交流の例の一つとして表現することについては、補足が必要であ

委員	<p>ると思っている。実際に茅野市の中で、これをしっかり深めていくことは当然必要であり、その部分を24ページの中で、SDGsに絡め、縄文文化に学ぶといった形で明示している。そもそも、市内に多数存在する文化遺産を通じた多くの学びについては、これからも研究して深めていくことが大切であり、価値として表現するところであると認識している。</p> <p>もう1点、9ページの半円形の図の一番下に「縄文文化に学ぶSDGs」があるが、この半円形は、木に例えると、下の部分が根に当たり、それが、上にいくにしたがって幹になり枝になり葉になっていると捉えている。しかし、その次の10ページからは「まちづくりの普遍的なテーマ」として、半円形の上の部分にある目的から根に向かって説明する流れになっている。説明方法のテクニカルな部分になるが、根から説明してはいけないのか。あえて葉から説明した意図は何かお聞きしたい。</p>
事務局	<p>15ページに「まちづくりの3つのポイント」を掲げているが、その1番目に「目的指向」がある。物事を進める時に、何のためにこれをやるのか、ということをもっと明確にすることが大切であり、それにより、必要なこと不要なこと、変えること変えないことが見えてくる。そういった考え方の流れを作りたかった。それを突き詰めて考えていかないと、多分、あれもこれも、になってしまう気がする。これから市として行財政改革を通じた選択と集中を進めていかなくてはならない。こうしたことを踏まえ、総合計画に基づくまちづくりにおいても、まず何のために、という部分を明確にしたかったので先に持ってきた。</p>
委員	<p>よくわかった。そうすると、「何のために」の部分を「普遍的なテーマ」と表現することで「根」の部分表現しているように捉えられる気がする。「普遍的なテーマ」となると、おしもおされもせぬテーマであり、強い言葉のような気がする。自分だけがそう思うだけかもしれないが。</p>
会長	<p>事務局で検討してみたい。</p>
委員	<p>私だけの感想かもしれないので無理やり考えなくて結構。先ほどの理由は納得ができるので、これはこれで良いと思う。</p>
会長	<p>26ページのまちづくりの成果指標の部分については、パブコメでもご意見をいただいたので、この2つを案として挙げているが、この指標で良いかご意見をお伺いしたい。</p>
委員	<p>事務局に聞きたいが、市民意識調査を市が実施したとのことだが、全国的にも同じような調査をやっている、他自治体と比較することができるものなのか。茅野市の調査結果の上がり下がりも良いが、果たして全体で比較した時にそれは本当に幸福なのかということも一つ必要だと思う。また、これは意見だが、定量的なものに加えて定性的なものもここはあっても良いのではないかと思う。</p> <p>もう一点、手間のかかることではあるが、社会学的な調査のようなもの、例えば、100人の茅野市の人に幸せの感覚というものを言葉に表してもらおうようなアンケートを取ってみてはいかがか。アンケートと言うより、スト</p>

	<p>ーリーのようなものでも構わない、昨今では「ナラティブ」と言うのかもしれない。そうすると、ある年度で区切った時に、どんな人たちがどんなことを考えてどんなふうに暮らしていたかという記録が残る。それが将来、意外と大きい価値を持ってきたりする。この定性的と思われているものも、最近ではテキストマイニングという手法により、定量的に変換して比較することもできる。予算的なものもあるとは思いますが、こうしたことをやってみるのも面白いと思っている。</p>
事務局	<p>国は今、ウェルビーイング指標の活用を進めている。そして、国の「デジタル田園都市国家構想」を進めるための交付金を使った自治体は、交付金事業の成果を測るために、この指標に基づくアンケート調査を行い、その結果を国に報告することになっている。実際、茅野市のように、この交付金を活用した自治体はもちろんだが、それ以外の自治体にもこの指標の活用が広がっている。各自治体は、国が示す基準となる設問に基づき、ほぼ同じ内容でアンケート調査を行い、それを大体同じ人口規模ごとに偏差値化して、比較することができるようになっている。今後、この指標を活用する自治体も増えていくと見込んでいる。</p>
会長	<p>定性的な評価の手法もあれば検討してみたい。その他にいかがか。</p>
委員	<p>私がパブコメで感じたのは、市民にとっては具体策が重要であるということである。9ページの図については前半が良いと思う。後半の手段、価値観のそれぞれのページに関連する分野別計画の記載があるが、この部分がとても大事である。これを9ページの図の中に入れてみたらどうか。そうすれば一目で全体像がわかり、具体策もイメージできるのではないか。</p>
委員	<p>「幸せを実現できるまち」であることをうまく発信できれば、みんなそんなまちに行きたいと思うだろう。幸せがどういうものか考える時、現在、内閣府主導で、それを測る指標を打ち出しているが、そのベースにあるのは、ブータンの幸せの尺度であると思う。ブータンという非常に貧しい国に住む人の幸せの度合いと世界の富豪の幸せ度合いは同じという話もある。なぜ、ブータンの人が幸せなのか考えると、先ほどもあったが、内々での交流、例えば、人がすれ違う時に自然に目が合うとか、会釈するとかが自然に起きている、それが幸せにつながっているのだと思う。茅野市が「幸せを実現できるまち」であるならば、それをどのように表に出していくか難しいと感じている。</p> <p>先ほど、縄文文化が日本の基層にあるといった話も出たが、それはどういったものなのか。例えばそれを私が外国に行って説明しようとしても、うまくできなと感じた。</p> <p>多様性について、私は先日ニューヨークから帰って来たが、ニューヨークの人はとても優しいと感じた。ニューヨークが多く国から人が集まるまちであり、相手のことを理解しなければ物事が進んでいけないため、精一杯お互いを理解しようと話しを良く聞いてくれる、その態度が優しいと感じるのだと思う。他者を尊重するという意味で、茅野市が多様性の尊重をどのように目指していくのか委員の皆さんにお考えがあれば聞いてみたい。</p>

委員	<p>今委員がおっしゃったことは、すごく大事なことだと思う。特にここで新しく入れ込んだ16ページの市内の交流の部分については、市外からの交流、連携ではなくて、茅野市を面として捉えた時の面の中の交流、もっと言えば自分の住んでいる地域の隣組のような交流であり、それは、自分の生きがいを作っていく上で大事なベースになると思う。そこで幸せを感じる最も大きな要素の一つとしては、やはり人のために生きているという実感があるかどうかである。そして、面としての交流が、小さくても大きくても、そこに自分のアイデンティティーがあって、助け合いができてることが大切である。例えば雪かき一つにしても、近所のおばあちゃんの家のお雪かきをしてあげたことで、おばあちゃんにありがとうと言われたら嬉しい。そういったことが市内の交流の考え方のベースになっているのではないかなと思った。今のご意見は、すごく大事であると思った。</p>
会長	<p>その他にいかがか。</p>
委員	<p>2ページの『「若者に選ばれるまち」実現を目指す人口減少対策の取組』の項目だが、ここに書かれている3つのポツの内容について、これだけで若者に選ばれるまちになるのかなと感じた。今委員がおっしゃったように、人が幸せを感じるには、人とのつながりすなわち、地域に根差した生活ができるかどうかということが一番大事である。また、結婚した若者が住みやすいまちでなければ、茅野市が選ばれるとは思えない。やはり、暮らしやすさの視点をもう少しここに入れておいた方が良いと思った。</p> <p>もう一点、お聞きしたいが、4ページのこの四角い枠の中に、「超高齢化による社会保障費等の増大により、市財政の硬直化が進んでいる」と書いてあるが、社会保障費等とあるので、これだけが要因というわけではないと思うが、この表現だと、社会保障費が強調されてしまうと感じた。違う要因はないのか探してみると、下の注釈に「老朽化した公共施設の維持管理費」といった表記もある。市の財政の硬直化については、市民が一番気にしていることであり、パブリックコメントのご意見も踏まえて入れ込んだ内容だとは思いますが、社会保障費の増大だけでなく、違う要因も明示した方が、市民にわかりやすいと思った。</p>
会長	<p>超高齢化ばかりに目がいかないよう、十分な配慮が必要である。これまでのご意見に対して事務局いかがか。</p>
事務局	<p>まず一つ目に人の交流については、2ページの2つ目のポツに「公民協働のまちづくり」といった形でも明示しており、例えば福祉政策において、これまで茅野市は、人にやさしく、お互いに支えあえるまち、住んでてよかった茅野市などをテーマとして、地域の中で、一人一人を認め合いながら、そこに住んでいる人たちを互いに支え合うといった取組を育んできた経過がある。そのようなことをこの部分に記載すれば良いと感じた。</p> <p>また、先ほどの超高齢化による社会保障費等の部分の表現については、4ページの最初に、人口減少・超高齢化の進展が人出不足や産業の停滞を招いたり、市の税収確保がうまくいかないことなども要因に挙げられる。市財政の硬直化については、もう少し具体的に書いていきたいと考えている。</p>

副市長	<p>先ほど委員から、22ページの私たちの生活様式や考え方など、日本文化と呼べるものが縄文文化を基層にしている、という部分がわかりにくいというご意見をいただいたので、少し補足させていただきたい。縄文時代の生き方や考え方は、文字でわかってはいないので、縄文時代の遺跡などからその暮らしぶりなどを推察することになると思う。そうすると縄文時代の遺跡からは、いわゆる、いろり、炉のようなものを中心に、家族がそれを囲むように生活していたことがわかり、これは昭和30年代までの日本の、いろり、とか、こたつを囲んでいた生活様式と全く同じようなものだったと捉えられており、個人、家族、そして社会の形態が、縄文時代から昭和の時代までずっと続いてきたのだと思っている。また、縄文時代にもいくつかの住居が集まりコミュニティを形成していたわけだが、例えばけがをってしまった老人を、家族はもちろん地域の人が支え、歩けなくなっても生活できていた、というような痕跡も残っており、先ほど委員がおっしゃったようにいわゆる家族や地域などの内なる交流とういうものが縄文時代にあったということが言えると思う。</p> <p>また、これも解明されているわけではないが、縄文時代の土器の図柄は自然を模していると言われており、自然の声に耳を傾けるなど、自然とともに生きていたという意味では、現代の日本における様々な芸術においても、自然の声を聞くというような部分もあるので、そういった文化、基層部分というのが縄文時代から続いてきたのだろうと思っている。</p> <p>こうしたものは、この総合計画の中でも茅野市民として大切にすべきであり、大事な生活様式につながってくるのではないかと、そういう意味でここに入れさせていただいる。</p>
会長	他に事務局に聞きたいことはあるか。
委員	<p>茅野市のホームページを見ていたら、「茅野市スーパーシティ構想」というのが出ていた。何かすごく難しい文章で「茅野市サステイナブルローカルシティ」とあり、何のことかわからなかった。6次総にはこのスーパーシティ構想という言葉が出てこないの、どのような関係なのかお聞きしたい。</p> <p>また、このスーパーシティ構想というのは、内閣府が進めているいわゆるムーンショット計画から出てきた発想なのか。内閣府のムーンショット計画はホームページに載っているが、それを見ると、スーパーシティやスマートシティと混同してしまうような言葉がいっぱい並んでいる。</p>
事務局	<p>ご指摘の資料については、令和3年に茅野市が国のスーパーシティ構想に応募した時のものである。その結果として、スーパーシティではなく、国家戦略特区の1類型であるデジタル田園健康特区に指定された。サステイナブルローカルシティというテーマも、持続可能な地方都市の実現に向けて、デジタルトランスフォーメーションと規制緩和を融合、活用しながら、これからより一層深刻化する少子高齢化や財政の硬直化などに対応していく、そういった方向性を示したものになる。こうした経過を残しておくために現在もホームページで公開しているものということでご理解いただきたい。</p>
会長	その他、協議事項として何かあるか。

	<p>なし</p>
<p>会長</p>	<p>進行を事務局に戻す。</p>
<p>事務局</p>	<p>次第の「5、その他」として、今後のスケジュールを説明させていただく。</p> <p>11月28日に第4回の審議会を開催したいのでご予定いただきたい。内容としては、第5次総合計画の振り返りや成果指標の検討、基本構想の協議になる。そして12月の中旬頃に、第5回の審議会の開催を予定している。委員の任期が12月19日までなので、それまでに、基本構想の内容を固め、市長へ答申いただきたいと考えている。その後、年末から年始にかけてパブリックコメントを実施し、2月中旬頃の委員改選後の審議会において基本構想を最終確認し、3月の議会に上程したいと考えている。</p> <p>引き続き、来月茅野市で開催される国主催の「スーパーシティ・デジタル田園健康特区フォーラム」について、ご説明させていただく。</p> <p>11月18日に茅野市民館のマルチホールで内閣府主催のフォーラムが開催される。当日は、デジタル田園健康特区に指定されている国内3自治体、石川県の加賀市、岡山県の吉備中央町、そして当市のこれまでの取組を発表する場となっている。茅野市がどんなことをやってきたのか、そして、これから何を目指し、何を進めてようとしているのかを知っていただく機会になるので、ぜひご参加いただきたい。</p> <p>申し込みについては、お送りしたチラシにあるQRコードから行っていただきたい。なお、当日直接会場へお越しいただいても受付可能である。</p> <p>最後に副会長からごあいさつをお願いしたい。</p>
<p>副会長</p>	<p>基本構想も、パブコメを経て素案まで来た。本日の委員の皆さんのご意見が反映されると、より良いものになると感じている。アフターコロナの中で、視野の狭さというものが取り沙汰されている昨今だが、大きな視点、広い視野を持って目指す方向へ向かっていけたら良いと思っている。</p> <p>それでは第3回茅野市総合計画審議会を閉じさせていただく。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>